

運動に親しみの気持ちをもち、自ら運動に取り組む児童の育成 ～環境を工夫し、主運動につながる多様なゲームの経験を通して～

特別研修員 体育 阿部 将大(小学校教諭)

【目指す児童像】 運動に親しみの気持ちをもち、自ら運動に取り組む児童

手立て①

ボールを捉える動きや狙った場所に打つ感覚をつかむ多様なゲームの設定

ラリーアンドキャッチゲーム

相手コートからボールを投げ入れてもらい、相手へ打ち返すゲーム



たくさんラリーを続けたいな!

チームで何回できるかな?

壁当てゲーム

入れ替わりながら壁へ打ち合うゲーム



前回より記録が伸びたぞ!

ワンバウンド打ちゲーム

ワンバウンドしたボールを真上に打つゲーム



手立て②

環境の工夫 (場・ルール・道具)



ミニコーンとトラパーで作成した簡易ネット

ラリーが続くようにツープアウンドまで可



ラリーが続くように目印となる的を設置



児童が手作りの段ボール製のラケット



プレルボール・ソフトテニスボールからいつでも自由選択できる

ポイントを得ようと試行錯誤することで、主運動を行う上で必要な運動感覚を味わう

児童が自ら選んだり、道具を作ったり、技能に合わせたりしてゲームをおもしろくする

まとめ

タスク・メインゲーム

活動②

ドリルゲーム

活動①

準備運動

実践例：小学校3年 ネット型ゲーム「テニピン」

児童の実態

- ・運動することや外で遊ぶことに消極的である。
- ・新体力テストの結果が低下している。

教師の願い

- ・体を動かすことの楽しさを感じてほしい。
- ・運動することへの意欲を高めてほしい。

◎成果

- ・ボール運動に対する意識について調査したところ、肯定的回答をした児童は、実践授業①前(6月)の67%から、実践授業②後(10月)の97%になり、運動に対する親しみの気持ちをもつようになってきていると言える。
- ・準備運動やドリルゲームで「前回より記録が伸びた」などの声が聞かれ、児童が技能の向上を実感することにつながった。
- ・ラケットの自作、ボール選択、ルールの簡素化は、運動に苦手意識のある児童も安心感をもって活動することにつながった。

▲課題

- ・より多くのポイントを取るために、主運動の目的からずれた動きをする児童が出てきた。活動の目的をしっかりと伝え、身に付けてほしい技能に難易度を付けて加点するなど、主運動につながる動きが継続的に経験できる工夫をする必要がある。